

# 森林やまがた

No.78

2003 9月

## 目次

- 「緑の雇用」等により  
林業担い手を育成・確保…2
- ふるさと林道  
「第三期整備計画」スタート…3
- 緑を育てるとは  
(県緑を育てる女性の会)…4
- 県民参加の森林づくり  
高まる森林づくりへの関心…5
- 緑の少年団活動報告  
みんなで作ったコスモスライク…6
- 緑の少年団活動を通して…6
- 環境に優しいペレットストーブ…7
- 現地ルポ  
山々にこだまする中学生の声…8
- 普及情報  
「安心きのこ生産マニュアル」…9
- 山形県の古木・名木…10
- 公共木造施設…10
- お知らせ  
第十三回山形県林業まつり…11
- 第五十回山形県林業年次大会…11
- ウッドフェスティバル2003…11
- 林業公社の森林づくり活動…11
- 丸太価格の推移…12
- 製材品価格の推移…12

(表紙写真は、飯豊町で行われたボランティアによるブナの植樹：22世紀の森づくりの会)

# 「緑の雇用」等により林業担い手を育成・確保

「森林の多面的機能の充実化に向けた担い手確保対策」

## 林業担い手をめぐる情勢

森林の多面的な機能發揮のためには、森林整備を恒常的に行う担い手が不可欠ですが、本県林業の雇用形態は短期雇用が多いうえ、林業従事者は減少・高齢化傾向にあります。

ちなみに、平成十四年度の県内新規就業者は十八名で、うち新規学卒者は三名にとどまっております。

一方で、地球温暖化防止森林吸収源一〇カ年対策等に基づく管理不十分な森林の整備が求められており、これらを踏まえた就業機会及び新規就業者の確保が必要になっております。

山形県森林整備長期計画では、林業就業者数を平成十一年度の三千五百人に対し、平成二十二年度（最終年）の時点で三千人が必要と見込んでおります。

## 林業担い手確保対策

県では、このような状況を踏まえ、平成十五年度から山形県森林組合連合会が新たに実施している緑の雇用担い手育成対策事業や拡充された里

山景観創成事業などを主な柱として、就業者の確保対策に取り組んでいるところです。

## 「緑の雇用担い手育成対策事業」

緊急雇用対策に従事した者を対象に、集合研修（四十五日間）及び実際の作業に従事しながら基幹的な林業就業者としての必要な基本動作や森林作業を習得させるOJT研修（百八十日間）を実施することで、本格的に森林の整備等を行うことのできる担い手を育成する事業です。

この事業は、山形県森林組合連合会が実施主体となり、現在、県内十一の事業体（森林組合）で三十一名の研修生を受け入れ、公社造林地、県営林、市町村有林を研修フィールドとして、OJT研修により枝打ち・除間伐等の作業を学んでいるところです。

一連の研修が終了した時点で、それぞれの地域に、林業の担い手として基幹就業者が誕生することが期待されます。

## 「里山景観創成事業」

緊急地域雇用対策の一環として、居住地周辺の里山林及び庄内砂丘林において、松くい虫被害森林の復旧をはじめ、修景の必要な森林の保全・整備が実施されております。

平成十五年度は、約二百八十人の雇用を創出し、そのうち約二百十人の新規雇用を見込んでおります。

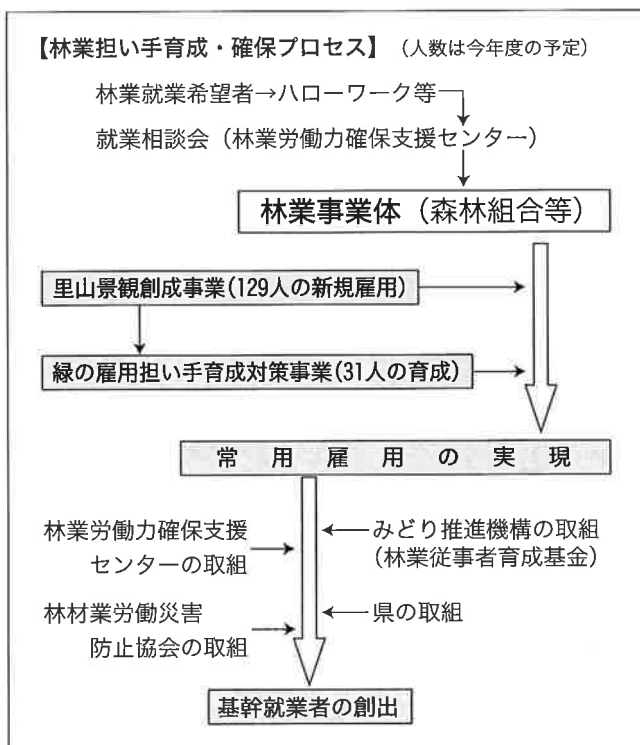
里山景観創成事業の雇用は短期ですが、この中から本腰を入れて林業を担う就業者も創出されております。

また、「緑の雇用事業」における研修生は、緊急地域雇用対策による雇用が条件になっていることから、今

後ますます、これらの事業を踏まえた林業の担い手の育成・確保が期待される場所です。

県としては、今後、関係各機関との連携のもと、森林組合の体質強化を進め、林業就業者の通年雇用を促進するとともに、福利厚生等の就労待遇の充実、労働災害の防止等を図る徹底した林業労働安全衛生対策に取り組む、本格的に林業を担う基幹就業者の育成・確保を図っていくことになっております。

（県森林課）



新規就業者数（うち新規学卒者）		
H12	H13	H14
14 (1)人	13 (1)人	18 (3)人

## 期待される林道!

「環境保全」と「循環型社会の形成」に向けて

# ふるさと林道「第三期整備計画」スタート

見直される林道の役割

林道は、木材の生産をはじめ、国土の保全、水資源のかん養等の多様な役割を果たしている「森林」を整備保全するために欠くことのできない施設です。

また、山村の振興や生活環境の改善を図る生活道としても大きな役割を果たしております。

最近では、地球温暖化防止等の環境問題が国際的に注目されるようになり、二酸化炭素の吸収・固定等の役割を十分に果たすための森林の整備や、環境に優しい木材を有効に活用していく「循環型社会」を実現する上でも不可欠な施設として見直されるようになりました。

人気の高い「ふるさと林道」

「ふるさと林道」は、地域の課題に早急に応える必要のある路線を中心に、自然環境の保全に配慮しつつ、山村の振興と定住環境の改善を目的に、平成五年から実施されてきました。

その結果、平成十四年度までに二十四路線四万八千㊦が開設され、十路線が舗装されるなど、地域林業の主要な施設として活用されています。

### 「第三期整備計画」について

新しい森林・林業の基本的方向である持続的森林経営を図るためには、より一層の路網の整備が必要であり、第二期計画で未着工・未完成であった路線を中心に、期間延長の要望が強く出され、これに応える形で国では「第三期整備計画」をスタートすることになりました。

県内では、この計画において、七路線一万六千㊦の開設と三路線五千㊦の舗装、一路線十七箇所改良を予定しています。

### 今後の課題

「ふるさと林道」は、林道網の骨格となる幹線林道として計画されているものが多いことから、路線が未完成の場合、その役割を十分に果たしえないばかりでなく、効率的な森



間伐材が集積された作業ポイント

林作業を行うための作業道等も含めた路網が形成されないことになりません。例えば、間伐が必要な森林があっても路網が整備されていないために行き着けず、整備が遅れてしまうといった悪循環に陥ることが懸念されます。

本事業を有効に活用して機能的な路網を形成し、森林整備の促進に向けて着実な取り組みを期待いたします。

〔県森林課〕

舗装された林道葉山線

## 緑を育てるとは

山形県緑を育てる女性の会

代表世話人 小山 勝子

昨年の全国植樹祭は大成功に終わり、私たちの会としても会員のみなさんの協力によって、与えられた使命を果たすことができ大変喜んでおります。

今年六月、同じ会場の金山町『遊学の森』でポスト植樹祭があり、一年ぶりに懐かしく出かけました。

会場の正面には天皇・皇后両陛下お手植えのブナ、スギやヤマボウシがすくすくと育っているのを見て、当時のことが鮮やかによみがえり、しばらくの間、立ち尽くしてしまいました。大地に根を下ろし厳冬にもじつと耐え、春の息吹きとともに力強く育ってきた樹木の緑がいとしく、新たな感動をおぼえて帰りました。

更にまた、五月の千葉県木更津市での植樹祭では、山形県とは異なり海と山との調和がとれた独特の雰囲気、華やかな中にもシックな演出はすばらしいものでした。今回はゆつくりと参加させていただき感謝しております。来年は宮崎県開催ということで、南国情緒の植樹祭になる

のではと期待しております。

この七月、『女性の会・絆の森』の下刈りをご苦労さまでした。平成九年に飯豊町の源流の森にある三〇ヘクタールのおだやかな斜面に、スギの苗を植樹してから、もう六回目の下刈りになりました。西置賜森林整備課のみなさんや林業士の方々の厚いご協力のおかげで、今年の下刈りも心地よい汗を流すことができました。作業が終わった後のきれいなつた絆の森を眺めながら、現地の「かたくりの会」のみなさんからの心を込めた手づくりの嬉しい昼食に、疲れもぶつ飛んで楽しい気持ちになります。私たちも年をかさね年々足腰も弱くなつていきますが、一本一本愛情を込めて植樹したスギの木はグングン成長して、毎年再会するたびにたくましくなり元気をもらって帰ります。

このほど東北森林管理局から「緑の回廊」設定委員会への参加依頼があり、会の同意のうえで参加することになりました。

資料を見ますと神室山から鳥海山・月山などを巡り、蔵王山に至る約二六〇キロと長い回廊のネットワーク

ク化を促進し、野生動植物たちの住みよい環境づくりを目的とし、人工林を段階的に天然林へ誘導することや、野生動物の営巣などに大切な古木や、餌となる植物を保存することなど、野生動植物の生息に配慮することになっております。

動植物たちが、長い回廊を渡りながら野生生活を営み、仲間づくりをしながら、お互いが交流し遊べるように、少しでも手助けができればと思います。

会の活動は、遠くへの研修活動も交流活動も出来ないでいましたが、今年こそちよつと足を伸ばして九月に二つのブロックが一緒になり、現地研修会と称して秋田県と青森県にまたがる日本最初の『世界自然遺産・白神山地から十二湖巡り』を企画しました。ブナを主体とした広葉樹林などが広がり、原始的なブナ林は世界最大級で貴重な生態系として太古の姿を今に伝えているものです。

地元のブナ林もすばらしいものですが、はるかに広大な白神山地を見るのもいいと思います、会員のみなさんを募りましたところ、予想以上の参加者となっております。この研修結果は会報「あふれる緑」に掲載し、

みなさんにフィードバックしたいと思っております。

いろいろと森とのかかわり、木のぬくもりを肌で感じながら、十月の林業まつりや各種行事がまだまだありますので、常日頃から健康に気配りして楽しみながらの参加を期待しております。

最後に、いつも協力してくれる会員のみなさんには、ここから感謝いたしております。



「絆の森」の下刈り作業に集まった会員

## 県民参加の森林づくり

# 高まる森林づくりへの関心

水源の森づくりに100名参加

### 刈払機の操作を学ぶ

ダムの上流部において、水土保持機能を確保し、ダム機能の維持向上を図ることをねらいとし、水資源から多大な恩恵を受けて生活している我々県民の力で、水源林の森林整備を行う「水源の森づくり活動」を実施しました。

七月五日（土）に、飯豊町宇津沢



刈払機の操作を学ぶ参加者

の公社造林地にて、一般県民等の参加を募り、多くの参加を得られました。今回は、下刈作業の技術の習得を目的に、刈払機の安全な操作方法と器具の手入れについて指導を受け、参加者全員で下刈作業を体験し、爽やかな汗を流しました。

午後からは、地元的林業士の山口八郎御夫妻から「里山を楽しむ」と題して、緑陰TALKを所有林のブナ林で行いました。山口家の山林の利活用や将来への期待など楽しい話と、緑濃いブナ林は、下刈作業の疲れも忘れるほどの癒される時間でした。

日頃、森林と触れることの少ない参加者でしたが、森林の手入れの大切さを理解してくれたと思います。

## 二十八件申込み 抽選会で十区画決まる

上山市の柏木森林オーナーは、問い合わせを含めると四十件あるなど、多くの方々の申込みがありました。遠くは、横浜市をはじめ、七市三町の方々、また年齢は、三十歳代から七十歳代まで老若男女の申し込み状況でした。現地説明会・抽選会には、家族や友達同志での多数の参加があり、十区画全てオーナーが決定しました。

柏木森林オーナー事業の特徴は、自生の山菜やきのこを採取できる『協働の森』と、オーナー同志や地域住民との交流を図る『交流の広場』の設定をしました。

今後の森林オーナー事業の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

- ①申し込みの動機は、
- ・きのこ栽培をしたかった
- ・山の好きな仲間・地域住民との交流をもちたかった
- ・写真を撮ったり自然に親しみたいなどの記載がありました。
- ②森林づくり活動に対する要望は、
- ・樹木の種類の学習
- ・きのこ栽培



柏木森林オーナー現地説明会

- ・チェーンソーの使い方
- ・スズメ蜂やマムシ対処方法を教えてもらいたい要望でした。
- ③森林づくりのプログラムメニューは、
- ・一連の森林作業や作業歩道の作設
- ・丸太のイスづくり
- ・木の木の採取

〔山形県林業公社〕

# 緑の少年団



瀧口さん



菅原さん

# 活動報告

東根市立東郷小学校  
6年 瀧口 瑛里香  
菅原 竜太

## みんなで作ったコスモスライン

瀧口 瑛里香

わたしたちの学校は、二年前から緑の少年団活動が始まりました。グラウンドが完成して桜を植樹したり、

## みんなで作ったコスモスライン 緑の少年団活動を通して

コスモスロードに種をまいたりして六年生の活動を見てきました。緑のぼうしをかぶり、かたにスカーフをまいて活動している六年生が、つよく見え、来年はわたしたちの番だと思つて楽しみにしていました。

いよいよ、わたしたちの番です。最初に行つた活動は花を植えることでした。学校の前にある畑に色とりどりの花を植えました。登下校の途中に見るととてもきれいです。

次に行ったのは、コスモスの種まきでした。わたしたちの東郷地区は



花を植えた最初の少年団活動

バイパス沿いに昔からコスモスの種をまいています。小学校、中学校、地域の団体など、みんなでコスモスをさかせる道路は「月山眺望コスモスライン」と呼ばれています。毎年秋になるとそこを通るのが楽しみです。

わたしたちも、今年はその一員となれるのです。まず、草を取りました。耕し、種をまき、肥料をあげました。みんなで汗をかきながらがんばりました。わたしたちのコスモスがきれいに咲くのが楽しみです。

緑の少年団活動を始めてまだ三ヵ月ですが、学んだことはたくさんあります。花の美しさ、自然を増やすことの楽しさ、自然と一緒に生活す

ることの大切さ。これからの活動を通して、生活を豊かにしてくれる自然を守ったり増やしたりしていきたいです。

## 緑の少年団活動を通して

菅原 竜太

先月、ぼくたち緑の少年団は、地域の人とともに「月山眺望コスモスライン」にコスモスの種をまきました。今は芽が出るか出ないかという状態ですが、秋には人々の目を楽しませてくれるきれいなコスモスの道ができることでしょう。

ぼくは、緑の少年団とは、木や花などを植え、自然を増やすだけだと考えていました。しかし、それだけではないということがわかりました。自然について考えるを通して、心も豊かにすることができるということです。

夏休みに入つてすぐ、ぼくは緑の少年団交流研修会に参加してきました。初めて会った他校の人と友達の輪を広げました。信頼を深めた友と一緒に、自然散策に出かけました。森の中には、そこらで見かける竹や草がありました。竹は工夫することでも笛になります。長さ一つで音色が変わります。自分の息の強さによつ

ても変わります。草はよく見るといろいろな種類があります。においきついもの、いい香のするもの、似ているようで違うものなど、おもしろい発見がたくさんできました。仲間と楽しく活動しながら、森を知ることができました。

何百年とかけていろいろなものを生み出してきた森。その大きな森の中にある緑に向き合おうとしたことはあつただろうかと考えさせられました。

緑の減っている現在、これまで長い時間をかけて生み出された緑を大切にし、また僕たちの手で新しい緑を生み出していかうと思えます。



「月山眺望コスモスライン」でのコスモスの種まき

# あなたも使って見ませんか！

## 環境にやさしいペレットストーブ

◇はじめに

近年、化石燃料に代わるエネルギーとして全国的に木質ペレットが注目されています。県内では、櫛引町で今春から木質ペレット製造施設が稼働、寒河江市でも今年度中に製造施設が建設される予定になっています。

また、飯豊町の農業用ハウスや天童市、村山市の公共施設で今年度中にペレットボイラーを導入するなど、木質バイオマスエネルギーに対する理解も徐々に深まりつつありますが、普及定着のためには、ペレットボイラーの導入と併せてペレットストーブを一般の方々から如何に多く使っ

てもらえるかがキープポイントであると言われています。

◇ペレットストーブ

これまで使われているものは、外国産のものがほとんどで、年間二五〇台ほど輸入販売されています。木質ペレットは、木材や樹皮を粉碎し乾燥した後、加圧成型した固形燃料で、原料によりバークペレット(樹皮)、ホワイトペレット(木部)、ブラウンペレット又は全木ペレット(樹皮と木部の混合)と呼ばれていますが、外国産のストーブはホワイトペレットしか燃やすことができません。天童市の機械メーカーが、

今年度でも燃焼可能なストーブを二種類開発しました。一つは、昔使われていたダルマストーブと同じように本体を熱くして、そのふく射熱で部屋を暖めるタイプで、もう一つは、炎が見え、FF式の石油ストーブと同じように熱交換し、強制的に温風を室内に送風するタイプ(外国産のものほとんどがこのタイプ)です。

機械メーカーでは、昨シーズン試験運転やモニターを実施し、改良を加え、今春からふく射式を生産販売しています。ペチカ型については、今シーズンは村山管内での限定販売を予定しており、本格販売は来シーズンからになります。

また、本体に山形鋳物を使い、炎も見えふく射式のストーブを開発中で、今年度中に試作し、平成十七年度から販売される見込みです。



自然対流型ストーブ(遠赤ふく射式)

◇ペレットストーブの販売先

県内のペレットストーブの販売先は、燃料供給体制の整っている庄内と村山地区に代理店があります。村山地区では寒河江市の協同組合山形ウッドエネルギー(☎〇二三七一八

六一五六一八)が代理店で、燃料の供給(配送)も併せて行います。



強制対流型ストーブ(ペチカ風)

◇今後の取り組み

皆さん方から安心して使っていただけのように、ストーブのアフターケアは機械メーカーと協同組合で行いますが、村山総合支庁では、燃料の安定供給や灰の処理システムの確立を図るため、今年度中に燃料店、ホームセンター、農協などの代表者を含めた協議会を設置し、検討することとしています。

〔村山総合支庁森林整備課〕



山々にこだまする中学生の声

ますます充実！ふるさと教育の森

「森林の大切さを学び、郷土を愛する心を育てよう」を目的に村山市内六つの中学校、約九百八十名の生徒が市教育委員会の主催で、七月一日、二日、三日の三日間、葉山山麓で植林などの森林体験をしました。

この催しは今年で二十二年目をむかえます。これまでは、植林や下刈り、施肥など、おもに山での作業が中心でしたが、平成十三年、二十周年を契機に、森林教室や森林ゲームを取り入れ「自然に親しみ、自然に遊び、そして学ぶ」実体験プログラムにと内容を充実させています。

今年度からは、さらに、従来の植林作業と森林ゲームに加えて、森林教室を拡充し活動時間を延長しました。森林教室は六種類のコースに増やし、生徒はそこから一つを選びます。

各コースの内容を紹介します。

- ① 森の探検隊
- ② 野草を食べよう
- ③ バードウォッチ
- ④ 木を削ろう

⑤ 草玉づくり

⑥ フィールドビンゴ

①の森の探検隊では、葉になる木を舐めてみたり、良い匂いの木を探したり、触れて見て五感で感じる森林を体験しました。

②の野草を食べようでは、地元の林業士や緑を育てる女性の会の指導のもと、採取した野草を天ぷらにして、はじめて食べる野草の味に自然の豊かさを感じました。

③のバードウォッチでは、地元の野鳥の会の案内で、鳥の声を聞きながら森の中を散策し、山の生き物や自然とふれあいました。

④の木を削ろうでは、普段使わないノコギリ、ナタの使い方を地元林業クラブや林業士の方から指導を受け、木を切り倒し、削ってコースターを作り、木の感触を感じながら気持ちの良い汗を流しました。

⑤の草玉づくりでは、木炭を芯にして、まわりに水苔をまいてボール状にまるめ、採取した植物を植えるなど、観賞用の草玉作りをおして

自然を身近に感じました。  
⑥のフィールドビンゴは、ビンゴカードに書かれている問題を山の中から探して、ビンゴを完成させるゲームで、森の中にはいろいろなものが隠れていることを発見しました。



「森の探検隊」イタドリ草の葉をトライ

生徒たちはそれぞれのコースに分かれ、新しく発見した感嘆の声や、完成した喜びの声を上げたりしながら森林や自然を体感し満喫しました。生徒たちからは「日頃できない体験ができてよかった」「山の中を歩き

回って自然の豊かさを感じた」などの感想が聞かれました。



「草玉づくり」山野草を植えて完成

このたび、地元の林業士をはじめ、林業クラブ、緑を育てる女性の会、野鳥の会など多くの方々に指導をいただき、これまでになく内容の濃い活動になりました。

このように、教育の森の活動に、地元の方々が加わることによって、地域の連帯が強まり、一層、緑の大切さと郷土を愛する心が育まれるものと期待されます。

〔村山総合支庁北村山森林整備課〕





# 食の安全・安心の求めに応える 「安心きのこ生産マニュアル」

きのこは、自然食品・健康食品として消費者に受け入れられ、その薬効的な成分への関心も高まっています。また、その一方で、BSE問題、産地偽装表示や無登録農薬問題等、食品の安全に対する不安から、消費者が食の安全・安心を求める声が強くなっています。



きのこの生産は、これまでも安心して食べられる食品として取り組まれてきましたが、消費者に、より安心して食してもらうため、全国食用きのこ種菌協会が「安心きのこ生産マニュアル」を策定し、このたび公表されましたので紹介します。

このマニュアルは、

- ① 無農薬を軸とし、
- ② 消費者の求める安全基準と生産者の責務としての安全基準の接点を求め、
- ③ 生産者が努力すれば実現可能とされています。

二 マニュアルにおける農薬及び化学合成品の使用に関する考え方

農薬は、一切使わず、化学合成品については、食品添加物（厚生労働省指定）に記載されたものであっても、使用目的別に材料を限定、また、可能なものは極力天然物から採取したものを使用することとし、使用目的別に、以下のとおり使用すること



としています。

【種菌培地 pH調整用】塩酸、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム

【培地添加用・櫛木浸水発生時増収用】炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、硫酸アンモニウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、リン酸水素二カリウム、リン酸二水素カリウム、リン酸二水素カルシウム

【手指や施設消毒】滅菌水、消毒用アルコール、食品添加用アルコール、電解水、次亜塩素酸ナトリウム

【手指や施設消毒】滅菌水、消毒用アルコール、食品添加用アルコール、電解水、次亜塩素酸ナトリウム

ウム、二酸化塩素、塩化ベンザルコニウム

三 マニュアルのチェックポイント これらを基本的な考え方としながら、

- ① 生産に用いる原材料の安全性のチェック
- ② 生産の各工程において、害菌、害虫の発生予防
- ③ 施設の清潔な維持管理
- ④ 食品添加物の限定的な使用及び作業工程における衛生管理
- ⑤ 生産の各工程における農薬の不使用

等について、栽培方法別、工程毎に多くのチェックポイント及びチェック方法が設けられ、実行にあたっては細心の注意が必要な内容となっています。

なお、同協会では、マニュアルによる生産品の認証及びシンボルマークの作成等を検討していくとしています。

「安心きのこ生産マニュアル・同解説書」は、全国食用きのこ種菌協会（☎〇三―三二四―一三〇九四）から、頒布されています。

〔県森林課林業専門技術員〕



このイチヨウは、遍照寺境内にあり、昭和四十八年五月二十二日に市指定天然記念物に指定されている。

目通り六・二呎、根廻り一〇・六六呎、高さ二六・九〇呎あり、十二本の枝が張り出して大木をなし、第一枝には「乳（気根）」が生じている。

樹齢は、六百年に近い古木であるが、樹勢は旺盛で昭和五十一年の秋の台風で大枝にかなりの被害を受けたが、全貌は変わっていない。

〔山形県森林協会〕



(案内略図)



**公共木造施設 ⑬**

**西川町立  
にしかわ保育園**

西川町海味

完成年 平成13年度

延床面積

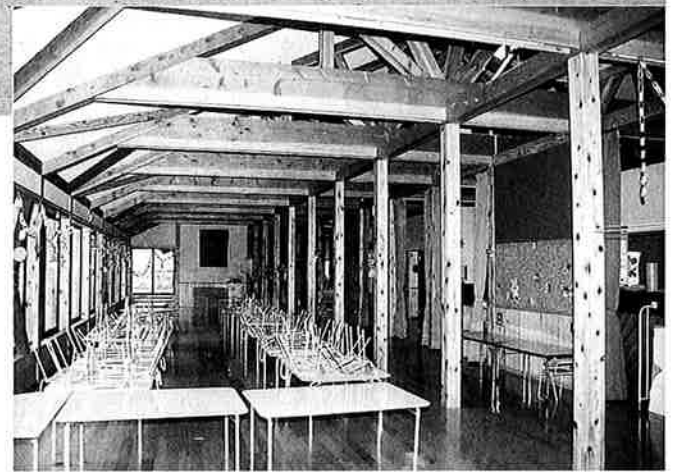
- ・保育園舎 1,746.74㎡
- ・車庫 101.18㎡

構造

- ・保育園舎 木造平屋建て
- ・車庫 木造2階建て

問合せ 西川町保育課

特徴 生後6ヶ月の乳児から保育しており、施設は地域で生産された西山材をふんだんに使用している。



**第十三回山形県林業まつり**

**「見て触れて使って活かす木の命」**

今年でいよいよ十三回目を迎える『山形県林業まつり』が左記のとおり開催されます。

**一日時**

平成十五年十月十二日(日) 正午～午後四時  
平成十五年十月十三日(月) 午前九時三〇分～午後三時

**二会場**

山形国際交流プラザ(ビッグウイング)

**三 主な催しもの**

○森林の働き、林業の役割、木材の良さ等をおかりやすく紹介するパネル展示等 ○木質バイオマス関係展示 ○間伐材製品の展示・販売 ○県産きのこを思いっきり味わえる『きのこ村』 ○各地域の特産品(木工品、山菜、きのこほか)の展示・販売 ○親子で楽しく木工工作できる『青空親子木工教室』 ○竹馬、けん玉など昔の遊び体験 ○子供たちと一緒にネイチャーゲーム ○緑化樹のプレゼント

その他、楽しい企画がいっぱい。今年は、国民文化祭と併せて開催します。皆様のご来場をお待ちしております。  
〔県森林課〕

**第五十回山形県林業年次大会**

**一日時** 平成十五年十月十二日(日)

午前十時～十二時

**二 場所** ビッグウイング

四階 研修室

**三 内容** 記念講演及び大会

**お知らせ**

**ウッドフェスティバル2003**

**「木づくりにあつて、木の良さを」**

今年で十四回目となるウッドフェスティバルが左記の通り開催されます。

**一日時**

十月十八日(土) 十時～  
十月十九日(日) 十五時まで

**二会場**

鶴岡市小真木原公園内

体育館周辺広場

**三 主催**

山形県、鶴岡市

**四 催し物内容**

- ・木工やネイチャークラフト等の体験コーナー
- ・緑化木や林産物のプレゼント
- ・太鼓演奏等の各種アトラクション
- ・「上棟式」の実演と酒や赤飯のふるまい
- ・森林・林業・木材等の紹介コーナー
- ・「緑」や「家づくり」の相談コーナー
- ・地域の特産物、木工品、林産物等の展示販売

他にも楽しい企画が盛りだくさんです。

また、当日は「緑の鶴岡農林水産まつり」、「県技能まつり(鶴岡会場)」、「県住宅フェア(鶴岡会場)」も同時に開催され、多彩なイベントとなる予定です。

皆様のご来場をお待ちしております。  
〔庄内総合支庁森林整備課〕



**お知らせ**

開催日	場所	森林づくり活動内容
10月12日(日) 10月13日(祝)	山形市 (ビッグウイング)	林業まつり in 国民文化祭 『木のなんでも市場』開設 誰でも買えます! 1本でも買えます! 1. 木の匠「技の学校」(木工づくりに挑戦) 2. 間伐材を利用した「木の何でも市場」 3. 山の恵み特産品市
10月13日(祝)	南陽市宮内 (南陽宮内公社造林地)	森を創ろう体験バスツアー 『古の森をよみがえさせよう』 1. 緑化植樹体験 2. 講演「森林ボランティアで山づくり」 3. 巡回診断「古木の健康診断」 4. ふるさと探訪「熊野大社と宮内の文化」

**林業公社の  
森林づくり活動のご案内**

森林や自然は、さまざまな働きをもち、人々に限りない恵みを与えてくれる大切な資源です。あなたの手で森林づくりをしてみませんか!

申込先 財団法人山形県林業公社  
TEL 023-623-3505  
FAX 023-623-3530  
E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

# 環境を守ろう

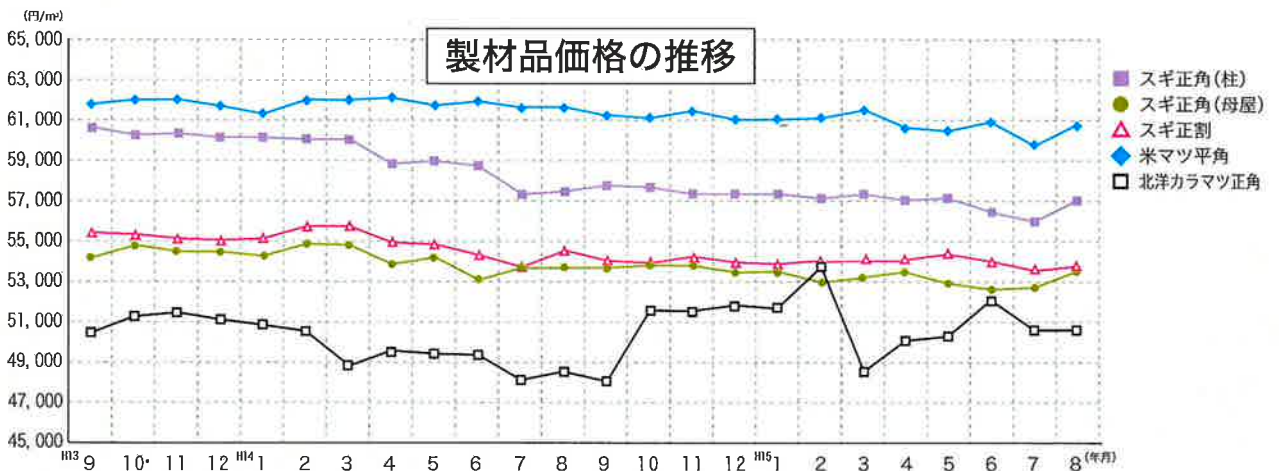
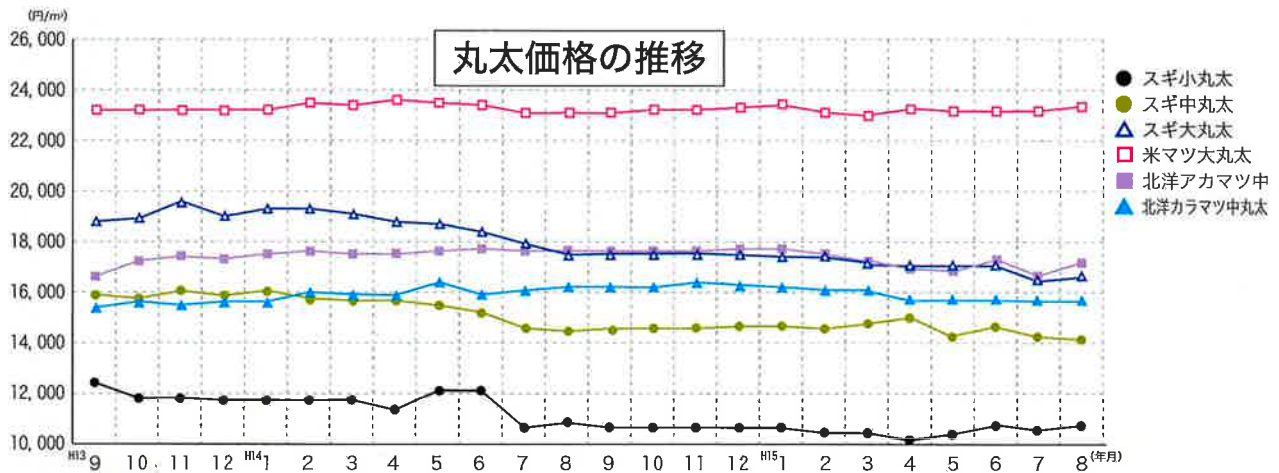
災害に強い県土を  
良質な水の安定供給を  
緑豊かな環境づくりを

# 森林を育てよう

山村の生活環境の整備を  
森林の恵みの循環利用を

## 山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)  
電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454



印刷所

渡辺活版所

定価

一部二〇円

森林やまがた 9月号 平成15年9月1日発行 通巻第78号

監修 山形県  
編集・発行 山形県森林協会  
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内  
TEL 023-631-6566 023-622-8823  
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/10/100520.html>

古紙配合率 100%再生紙を使用しています